



特集 『駅前物語・札内編』より

北海道弁の「**ばくる**(交換する)」はこの馬喰が動詞化したものである。

伯楽(はくらく)、博勞(ばくろう)ともいう。

伯楽は古代中国では馬相をみる者をさしていたが、日本では馬薬師(馬医)もこう呼んだ。

16世紀頃から馬・牛の売買や仲介をする商人のことをいうようになった。京都や鎌倉には伯楽座があり、また都市周辺で馬市や牛市が開かれ、数多くの伯楽が集まった。17世紀からは運送、耕作などに使役することが広まり各地に馬喰町や馬喰宿などができた。

戦後、馬牛仲介人の役割をもつようになった。

幕別では札内の藤本辰蔵、ついで藤内為蔵が古い。為蔵の兄の梅蔵は武山市街で農業のかたわら馬喰をしていた。

町民文芸

まくべつ

第8号・1992